

～市民と創る！レクリエーション通信～

新潟県レクリエーション協会



RレクリエーションにいがたN recreation Niigata



私の「初夢」 ささやかな思い

一般社団法人 新潟県レクリエーション協会

理事 内山 和夫

皆様には、日々お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。私がレクリエーション活動を始めた40数年前、当時、レクリエーションといえば“暇つぶし”をイメージする人が多く、街を体操着で歩く姿も、まだ珍しかったように記憶しています。

現代は、趣味の多様化や健康志向が進んだ反面、いろいろな場面で、人と人との交流が希薄になるという、新たな課題が生じています。そこで、人と人との交流の演出を得意としているレクリエーション指導者の持つ資質を、今こそ発揮して行きたいものです。

交流を演出するには、イベントの開催も有効な手段です。令和6年度は、「第32回新潟県スポーツ・レクリエーション大会」が柏崎市で開催されます。訪れた参加者に、レクリエーションの楽しさや有益な「交流の場」を提供するために、今年も多くの加盟団体が集まり、持てる力をいかに発揮していきましょう。

令和6年がスタートしました。本年もよろしくお願いします。



Contents

- P1 巻頭言あいさつ 理事 内山和夫
- P2-3 第31回新潟県スポレク大会 基調講演より
会長 平山征夫
- P4 第31回新潟県スポレク大会ご報告
加盟団体ご紹介
- P5 スポレクスクールご報告・レク用品ご紹介
- P6 健康クラブ事業ご報告・健康クラブご紹介
- P7 大会ご案内・事業情報
- P8 日レクサイトご紹介・公認資格更新のご案内
編集後記

【編集／発行】

一般社団法人新潟県レクリエーション協会 会長 平山征夫
〒950-0933
新潟市中央区清五郎67-12 デンカビッグスワンスタジアム内

TEL 025-287-8709
FAX 025-287-8710
E-mail n-kenrec@cap.ocn.ne.jp
HP <http://www.niigata-rec.com/>

当協会HP
QRコード

※本広報誌に掲載している事業については、
新潟県レクリエーション協会までお問い合わせ下さい



「学校・地域とレクリエーション協会の連携・融合について」 —公立中学校の休日部活の地域移行の影響を踏まえ—

一般社団法人新潟県レクリエーション協会 会長 平山征夫

1. 今回の公立中学校の休日部活廃止の背景

2022年スポーツ庁有識者会議の報告「少子化で学校単位のスポーツの場の確保が困難になってきている現実を踏まえ、教員の負担軽減を更に進めるべく地域移行を図る」とあるように ①少子化による部活維持の困難化 ②教員の働き方改革、の2つが挙げられているが、この問題の基本的要因は少子化による児童数の減少 広義に見れば人口減が齎した大きな社会変化

★従って今回の検討テーマは小中学校の部活 **特に運動部の地域移行**となっているが、背景にある人口減が地域の人々のスポーツライフに及ぼす影響は、中学校の部活の維持困難化だけにとどまらず地域の人々全般におけるスポーツライフの維持困難化でもある事を認識して問題を議論する要。

★教員の働き方改革は本来別次元の問題

「働き過ぎ」の問題であれば、教員加配増や部活指導員の配置増などで解決することも可能なわけで、部活の地域移行という今回の変革の目的は これまで子供達の地域スポーツ活動を支えてきた **学校単位での部活が少子化に伴い維持出来なくなっている事**への対応検討があくまでメインテーマと捉えるべき。

★この問題は次には高校の部活維持困難、そして **地方でのスポーツライフそのものの維持困難を将来齎す公算が高い**ことを見据えて、この際ロングランな対応プランの中で当面の中学校の部活の地域移行に対処するのが賢明。



2-1. 中学校の部活「地域移行」の問題点

今回の公立中学校の部活を地域に移行する施策の内容「本年度から2025年までの3年間で移行、対象は公立中学校の運動部の休日の部活、但し平日や文化部の移行も視野に入れて取り組む」（尚、私立中学校もこれに追随することを期待）

★指摘されている主な課題や問題点

- ① 移行に伴う **資金負担**（スポーツクラブへの支払い、クラブの受け入れ態勢整備等）は誰が（何処が）負担するか。家庭の負担増は極力避け、所得によるスポーツ格差を生じないように配慮が必要。
- ② 3つの移行パターン「**地域スポーツクラブ・外部指導者・教員による兼業兼職（別途報酬含む）**」でどこまで人材（指導者）を確保し対応出来るか。
- ③ 答申等では「**多様な種目を経験することが望ましい**」とされているが、学校での現状においても既に種目はかなり限定されている。何を選択するかもう一度目的・児童の志向を踏まえて検討すべき。現在の部活における参加率の高い種目は、バスケットボール・バレーボール・サッカー・軟式野球・卓球・陸上・バトミントン・剣道等で **部活の無い種目もかなり多い**。また、**スポーツ指導員の専門種目と子供達の希望種目とのマッチング**をどう図るかも課題。
- ④ **運動施設**（地域移行に必要なスポーツ施設や学校の体育館）とそれに伴う **用具の確保**
グラウンド等の休日使用の弾力化、学校の運動施設は **学校の資産から地域の資産という概念へ転換**が必要。
- ⑤ **少子化対応**

今後も進行必至の少子化に耐えられる長期体制をどうやって築くか。当面の課題としては高校の部活維持の困難化への対応と地域全体の将来スポーツビジョンが必要。



2-2. 私の問題指摘 ～本年度から始まった中学校の休日部活の地域移行に対する疑問点～

- ① 学校での教員による平日部活動と休日の地域クラブ指導員による部活動の連携は取れるのか。



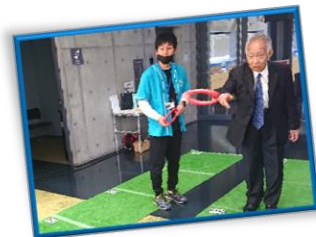
学校と地域の連携の必要性は平日移行も含めて考えて組むべきではないか。

- ② **移行の受け皿を整えられるか。** 受け皿の主体として期待される総合型地域スポーツクラブは整うのか（現在県内には31の総合型スポーツクラブしかないうえ、かなり地域格差がある。特に新潟市は少ない）
- ③ **高校部活へのスムーズな接続は可能か。** 中学まで地域スポーツクラブ等で活動した後、高校進学後再度学校のクラブ活動に戻る事になるがスムーズにいくか。高校野球など全国大会はどうあるべきか。
- ④ 私立中学の経営の自主性との兼ね合い。私立中学も同じ課題を抱えているが生徒募集の看板になっている面もある公立中学の地域移行に対し国等からの財政支援が見込まれているが、**私立中学との公平性についてや私立中学運動部とスポーツクラブとの対抗戦の有無について。**
- ⑤ 移行に当たって「**部活の位置づけと意義**」をもう一度明確に

- ★教育課程外におきながら教育的意義は大きいとしてきた部活の意義をどう評価するか。移行後は休日の部活について学校は把握しないことになるが、全体としての生徒指導等に齟齬はきたさないか（学校と地域クラブとの密接な連携の要）
- ★部活は従来から学校教育とは位置づけられていないが、移行により一層社会教育と位置付けられるので相應しい活動への移行。
- ★これまでの部活動についての意義については、クラスとは異なる人間関係や友情が育まれる事他、自主性や主体性の育成・自己肯定感の獲得・体力の向上等が挙げられてきたが、それらの意義が保たれるのかどうか。

- ⑥ **人口減の進む地域で全ての人々がスポーツライフを享受出来る体制**を今後ともどう構築してゆくか

地域移行の受け皿としては総合型地域スポーツクラブ・競技団体・スポーツ少年団等が考えられているが、ロングランで見た時、地域住民にとって重要な課題になるテーマなので、今から行政が深くかかわるべき課題と認識すべき。



3. 中学部活の地域移行後の地域スポーツへのレクリエーション活動のかかわり方

学校内に閉ざされていた中学校の部活が地域社会にオープンになることを前向きに捉え積極的に参加して

ゆくことを基本姿勢とすべき（総合型地域スポーツクラブの参加者は先に部活が地域に移行された小学生が26%とダントツ。困みに中学生は6%）各レクリエーション協会がどんな役割を担えるかは要検討ながら現状係わり方としては以下のようなことが想定される。

- ① 一番の課題とされている**スポーツ指導員の不足への対応**

改めて必要な指導者資格の取得も考慮（報酬上も取得がベター）兼業兼職による教員の休日指導参加はかなり制限され、指導員の不足は必至。幅広い参加者の交流が望まれており、**集団を一体化して楽しませる能力を持つレク指導員には極めて適正がある。**

- ② **レク種目のスポーツクラブでの採用**

地域移行に当たってはスポーツクラブ等で幅広い層の参加（親子等）や多種目への参加（活動効果上良い）が望まれている。**従来の部活種目以外の種目の採用が望まれており、レク種目は楽しく協調しながら大きな負担もなく参加できる良さがあり、スポーツクラブの活動を競技型だけでなく、スポーツレク型を加えるのは極めて適当**（文科省の総合型地域スポーツクラブの調査では、グランドゴルフ・健康体操・ウォーキング・スポーツ吹矢・ペタンク・キンボール・3B体操・パーゴルフ・インディアカ・バウンドテニスなどが種目に挙げられている）種目設定において諸団体との連携のもと、レク協の参加は必然。

- ③ **地域でのレク協の活動の場を拡大。** 部活の地域移行に伴うレク指導員のスポーツ指導への参加を機に、学校・地域スポーツ団体・行政等との連携を深め、各種地域活動により多く参加することが望まれる。

※以下想定される地域活動の例

★放課後子供教室への指導者派遣

★親子参加のスポーツ教室での指導

★学校行事でのレク指導

★スポーツ等による地域活性化イベントへの参加等





活動報告

「スポレクEXPO」～健康スポーツ・フェスティバル～ 第31回 新潟県スポーツ・レクリエーション大会

第31回新潟県スポーツ・レクリエーション大会は令和5年10月14日・15日の2日間に渡り、胎内市の新潟県少年自然の家、胎内市総合体育館、村上市の神林体育館他で開催いたしました。感染症対策にも留意しつつ無事に終えることができました。ご参加いただいた皆様とご協力いただいた関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。



You did it!



Great work!



Way to go!



令和5年度 当協会加盟団体

【市町村レクリエーション協会】

新潟県レクリエーション協会
長岡市レクリエーション協会
上越市レクリエーション協会
新津レクリエーション協会
村上市レクリエーション協会
阿賀野市レクリエーション協会
妙高市レクリエーション協会
佐渡レクリエーション協会
柏崎市レクリエーション協会
県央レクリエーション協会
小千谷市レクリエーション協会

【種目別団体】

新潟県サイクリング協会
新潟県フォークダンス連盟
新潟県キャンプ協会
新潟県オリエンテーリング協会
(一財)新潟県ゲートボール連盟
新潟県ベタンク連盟
新潟県インディアカ協会
新潟県スポーツチャンバラ協会
新潟県ターゲット・バードゴルフ協会
新潟県ドッジボール協会
新潟県カーリンコン協会
新潟県ボールウォーキング協会
新潟県クッパ協会
新潟県バウンドテニス協会

【領域別】

福祉レクリエーションネットワーク inにいがた
NPO法人 希楽々
新潟県障害者スポーツ協会

【課程認定校】

国際こども・福祉カレッジ
新潟医療福祉カレッジ
新潟医療福祉大学
新潟青陵大学・短期大学部
新潟中央短期大学
長岡崇徳福祉専門学校
上越保険医療福祉専門学校

※HPやFBを開設している団体は
当協会HP上でご紹介させて
いただきますので当協会事務局
までご連絡ください。



活動報告 R5年度 スポーツ・レクリエーションスクール

主催 (一社) 新潟県レクリエーション協会
共催 新潟県障害者スポーツ協会
後援 新潟県
(公財) 日本レクリエーション協会

今年度は11/4(土)-11/26(日)に新潟市・聖籠町・胎内市にて【Aコース：レクリエーション・インストラクター養成コース】を開催。
また県内と全国各地にて【Bコース：チャレンジスポーツ指導者養成コース(アタックファイブ・クッブ・ポールウォーキング・ふうせんバレー)】と【Cコース：レク式体力チェック普及指導員養成コース(一般・幼児運動能力チェック)】を随時開催し、沢山の方にご参加いただきました。
当協会考案のニユースポーツも多くの方に楽しんでいただき、普及について良い感触を得られたように思います。
ご参加いただきまして誠にありがとうございました。今後の皆様のご活躍の一助になれば幸いです。(^^♪ 



協会考案！ レク用具のご紹介！

[illegible]

種目：サイコロキックベース
用具：イチローくん
(8面体サイコロ)
1個 4,000円

種目：スゴロク
用具：一か八か
(8面体サイコロ)
1個 4,000円



◆アタック・ファイブポイントシート：1枚 2,500円
◆アタック・ファイブセット：1セット 8,000円
(ストーン20個、ポイントシート1枚)



種目：室内モルックセット
1セット 6,000円

活動
報告

R5年度 健康ひろば（健康クラブ）



令和5年度も新潟県内の13会場で実施し、6270名の方からご参加いただきました。ありがとうございました（^^）



笑顔と元気！



レクにゃん

健康クラブのご紹介

高田健康ひろば
 呼びこい車健康クラブ
 曽根さわやか健康クラブ
 さど健康クラブ
 青山さわやか健康クラブ
 ささかみサンサン健康クラブ
 柏崎さわやか健康クラブ
 西蒲スポレククラブ
 潟東さわやか健康クラブ
 水原健康クラブ
 にいつさわやかクラブ
 うらがわら健康スポーツクラブ

ご案内

大会・イベントご案内



第6回 スプリングカップ・クッポオープン大会



◆会 場 新潟市亀田総合体育館 多目的運動場（新潟市江南区茅野山3-1-13）

◆日 程 令和6年3月2日(土) 予選リーグ

受付(12:30-) 練習会(13:00-) 開会式(13:30-)

令和6年3月3日(日) 順位決定戦

開場(8:00-) 試合開始(9:00-) 閉会式(11:30-) 解散(12:00-)

◆参加費 1チーム 2,000円（健康クラブ参加者・学生チームは1,500円）

◆持ち物 室内用運動靴、運動しやすい服装、飲み物、防寒着

◆お申込み 令和6年2月26日(月)までに参加申込用紙に必要事項をご記入の上、
郵送・FAX・E-mailで当協会事務局にお申込みください。

主催：(一社)新潟県レクリエーション協会
新潟県レクリエーション協会
共催：日本クッポ協会
新潟県クッポ協会
後援：新潟県
主管：新潟県健康クラブ推進連絡会

〒950-0933 新潟市中央区清五郎67-12 デンカビッグスワンスタジアム内
一般社団法人 新潟県レクリエーション協会

☎ 025-287-8709 📠 025-287-8710 ✉ n-kenrec@cap.ocn.ne.jp

KUBBは緑の草原で棒を投げて
薪を倒し合うバイキング達が生み出した
スウェーデン生まれのスポーツ。
子どもから高齢者まで楽しくできる
エコなスロースポーツです。



事業 紹介

令和5年度チャレンジ・ザ・ゲーム活動助成事業 ・ 放課後支援活動事業 学校まるごと チャレンジ・ザ・ゲーム大会



この度中学校の放課後支援活動事業として、「学校まるごと チャレンジ・ザ・ゲーム大会」を実施する事になり、事業に先だって去る令和5年の11/13(月)に「チャレンジ・ザ・ゲーム普及審判員養成講習会」を実施して参りました。大会は中学生814名を対象に大掛かりな指導となります。本誌2-3ページでご紹介した会長のお話が早くも現実の物となっております。皆様お力添えの程、どうぞよろしくお願いいたします。

◆会 場 新潟市立上山中学校 武道場（新潟市中央区女池上山5-1-13）

◆日 程 令和6年 2/21(水) 2/22(木) 3/13(木) 3/14(木) 8:50 - 15:00

◆対 象 上山中学校 1年生から3年生の全校生徒 814名

◆内 容 学校の授業の一環として(体つくりの運動として)チャレンジ・ザ・ゲームの紹介をし、4種目の記録更新に挑戦していただきます。それらを通して仲間とのふれあいや楽しみを感じ、健康・体力・仲間づくりを目指します。

◆主 催 新潟市立上山中学校 / (一社)新潟県レクリエーション協会

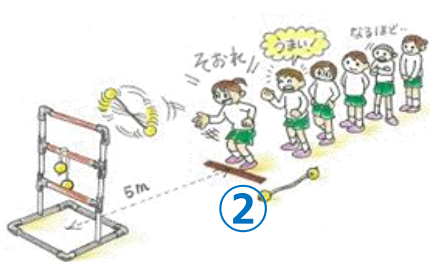
◆後 援 (公財)日本レクリエーション協会

◆種 目 ① ニチレク・ボール・チャレンジ

② スピード・ラダーゲッター

③ ペアリング・ザ・キャッチ

④ キャッチング・ザ・スティック



日レク公式HP
QRコード

(公財)日本レクリエーション協会公式サイト

<https://recreation.or.jp/>

公益財団法人日本レクリエーション協会
公式サイトのご案内です。レク有資格者
だけでなく、加盟団体のイベント掲載など
情報発信できるサイトになっています。
指導者養成情報をはじめ、
「ケンスポコム」
「あそびの日」に掲載したり、
「元気な高齢者を増やす応援サイト」で
助成金を活用して支援活動をする団体を
募集しています。コロナ終息後の活動に
向けて上手に情報を共有してみましよう。



公認指導者登録の更新を忘れていませんか？



＜更新案内が手元にない場合＞

「レクぽ」にて
インターネットでお支払い下さい。
「レクぽ」が利用できない場合は、
下記日レク協会までご連絡ください。
払込用紙をご本人様に送付いたします。

(公財)日本レクリエーション協会

☎ 03-3834-1092

＜更新案内が手元にある場合＞

払込取扱票は利用できるので、
郵便局やコンビニエンスストアで
お支払い下さい。
また「レクぽ」にて
インターネットでの
お支払いも可能です。

(別途、web決済料290円必要)



令和5年6月30日が有効期限の公認指導者で
更新手続きを済ませていない方は、公認指導者資格が
失効状態です。該当する方には日本レクリエーション
協会からメールや郵送で更新のお願いをしています。
また引越等で登録住所を変更していない場合は更新案内
が不達になっている場合があります。ご確認の上、
新潟県レクリエーション協会にご相談ください。

編集後記



まずは年始に能登沖地震で被害に遭われた北陸地方の皆様にお見舞い申し上げます。合わせて新潟県内で被害に遭われた方に
つきましてもお見舞い申し上げます。1日も早い心身の回復と生活の復旧をお祈り申し上げます。

私の身の周りはひとまず大丈夫でしたが、その数日後に起きた佐渡沖を震源とする地震の時は丁度独りぼっちで勤務中だった為、
お客様の安否確認や建物の破損状況の確認等の対応に追われておりました。

今の所、昨シーズンよりかは寒さや豪雪での被害が少ないように思いますが、新年早々こんな事になってしまい

「いったい今年はどんな年になるのだろう」と不安に感じて居る方も多いかもしれません。

昔から「備えあれば…」という言葉がありますが、災害グッズの準備や何かあった時の連絡方法や集合場所等について

家族や身の回りの人達を話し合っておくことも大切な事だと思います。 本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。 R.K (^^)

